**自転車旅からの贈り物/小松頼礼**

**私は、自転車旅が大好きだ。**

**こう思うようになったきっかけは、私が中学3年生だった2021年10月に、四国一周自転車旅を行ったことにある。**

**約半月間にわたって四国を一周したあの日々は、今も脳裏に強く焼き付いている。**

**自転車旅をすること自体、四国一周の時が初めてだったので、感動も大きかった。**

**四国に降り立った1日目は、瀬戸内海の美しさに圧倒され、4日目から5日目にかけては、高知県室戸岬周辺の太平洋の雄大さに目を奪われた。**

**今回の旅で特に印象に残っている場所は、高知県から、愛媛県にかけての県境付近だ。**

**急な登り坂が続く区間ではあったが、瀬戸内海が近いこともあり、登り切った後には美しい瀬戸内海の姿を眺めることができた。**

**なんといっても、自転車で急な坂を上って、見る美しい自然の姿は、言葉では表現できないものがある。**

**そして、四国といえば海の幸。**

**カツオのタタキや酒盗、宇和島鯛めし。**

**ライドの後に食べるそれらの味は、本当に格別で、「自転車で走り切る幸せ」を大きく感じた瞬間でもあったと思う。**

**さらには、人との出会い。**

**旅をしていれば、思いもよらないところに様々な出会いが待っていることも多くある。**

**例えば、地元の旅館に泊まったら、おかみさんが話しかけてくださり、ひたすら高知の話で盛り上がったりするなど、地域の方との会話。**

**これは本当によかった。なぜなら、話の流れで、地元の良い場所について聞けることもあるし、相手の方が地元の人であるからこそ盛り上がれることもあるように感じるからだ。**

**もう一つ例を挙げるとするならば、それは同じように旅をされている方との出会いだ。**

**今回の旅の中で、私は偶然、歩き遍路の方にコンビニで声をかけていただき、お話をさせてもらえる機会があった。**

**いざ話し始めると、30分間止まることなく二人でこれまで来た道のりについて話したり、話しかけてくださった方の過去の旅について伺ったり。私は、自分から同じように旅をされている方に話しかける勇気がなかなかないので、その時話しかけていただけて、本当にうれしかったし、何より同じ旅人としてこそ共有できるものがそこにはあって、旅に彩を添えて呉れた瞬間でもあった。**

**このように、私は旅先で出会える景色、人、グルメの3つの理由から自転車旅が大好きである。**

**自転車旅は、思いもよらないことの連続だ。**

**突然タイヤがパンクすることや、体にトラブルが起こることも多くある。**

**しかし、そういったトラブルさえも、自転車旅においては「楽しさ」に変えていくことができるのだ。**

**旅の中で、「辛い」と思うことはあっても、「旅をやめてしまいたい」と思うことは一度もなかった。私が行ったのは、短期間の旅であったから、その影響もあるのかもしれないが、私はこう考えている。**

**結局、トラブルが起こっても、またペダルをこげば、自分の心を豊かにしてくれる出会いや景色がその先にある。トラブルも、一つの通過点として楽しむことができたのだ。**

**これは、日常生活においても言えることだと思う。私は、やろうと思ったことがうまくいかないときに、イライラしてしまったり、態度に出てしまうことが日常の中でよくある。しかし、今回自転車旅をしたことによって、トラブルやピンチを多示唆に変えられる、あるいは変えられるのかもしれないという事を学ぶことができた。このほかにも、自転車旅は、様々な人やモノ、景色と出会うことで、今まで知らなかった、気付けていなかったような見えない『何か』を私に贈ってくれている。**

**日常とは違う空間に、自分だけでいることで、自分との対話をすることができるのだ。**

**私にとって、自転車旅とは、様々な出会いを通して、自分探しをするための一つの手段なのである。**

**そして今、私は農業に従事したいという想いから、自転車に乗れない愛農の丘の上で日々学んでいる。**

**愛農においても、きっと旅の中での出来事と同じように、様々な瞬間、人、景色との出会いがあるはずだ。**

**私は、与えられた3年間という時間を大切に、「自分にとって農業とは何なのか？」、「自分はどんな人で在りたいか」ということを考え続けていきたい。**

**このアイノウ生活の中でも、自転車旅をすることで気づかせてもらえた様々なこと、出会いの中から得たモノを忘れることなく、それらを生かせるように、学びを深めていきたいと思う。**

**そして、いつかまた、機会を見つけて自転車旅に出かけたい。**